

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念と基本方針を玄関先に掲示し、朝礼時に唱和していたこともあり、共有できている。 会議で理念について振り返ることもあり、現在においては社訓のみの唱和をしている。	基本理念、方針は玄関に表示されており、職員間で唱和して確認に努めていたが、この事業所らしい新しい理念づくりを目指してアンケートや面談をしている。	理念は介護生活ケアの真髄になるものなので職員全員で作り上げることは大切なことです。早急にホームらしいものが策定されることを希望します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所主催の行事は事前にお知らせしている。 駐車スペースで敬老会を行った際もご参加いただき楽しんでいただいた。	事業所の行事の時(敬老会兼収穫祭)は地域の区長さん、民生委員、高校生などのボランティア家族、近所の人たちが参加して終日盛り上がりを見せている。	励まれることを期待します。今後も地域の人たちが気軽に立ち寄りお茶を飲んで話していただけるような施設づくりに励まれるよう期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練、運営推進会議を行う際は区長や民生委員さんにもご参加いただき意見交換の場を設けている。区の集会などにも参加し地域の方々に事業所のことを知っていただけよう呼びかけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にし、会議で伝達しサービスの向上に努めている。	2か月に1回は開催していて、議事録も整理されている。職員への伝達もできているがパターン化の傾向があるので今後内容について検討していく意向である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方には運営推進会議にご参加いただく等意見交換している。	必要なことは市に連絡して相談のってもらっており連携はできている。指定の避難場所が遠方なので再度市と話し合っていく必要性を感じている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを掲示している。入居者が日々開放的な気分で生活できるよう施錠は行わずいつでも外にでられる環境をつくっている。	ツクイ自体のマニュアルはあるがホーム自身のもがないので今後検討していきたい。研修担当の職員が資料を提供して研修している。	身体拘束に関するマニュアル作り、定期的な研修に心がけてください。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で各自スタッフが学んだことを事業所に持ちかえり伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ないが、研修に参加し、伝達している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の段階で、クレームにつながりそうな部分は説明をした上で、ご家族に不安や疑問点についても伺っている。その時点で上がらなかった時には、今後何かあれば、気軽に尋ねてもらい、その都度説明する。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に要望等、伺っている。内容に合わせて、会議に取り上げながら、改善できるように努めている。	家族が面会に来た時にできるだけ意見聴取をしたり年1回はアンケートを実施して要望を聞くようにしている。意見は申し送りノートに書いて伝達したり、支援記録などにも記載している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に投げかけたり、こちらから積極的に意見を聞く機会を設けている。改善できるように努めている。	集中できるように市民会館会議室で全体会議を開いている。意見を言う人が固定化しており、会議の仕方に工夫が必要と感じている。	職員の意見を聞き出す工夫に心がけてください。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人がやりがいを持てるよう、レベルに合わせた役割を持ってもらっている。勤務状態、労働時間も把握し、様子に合わせて話す機会を設けている。会議の場を使って、環境整備や、個々の向上が出来るように伝達している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合った研修に積極的に参加できるようにしている。伝達研修や、職員の育成、スキルアップが出来るように、必要時、話し合いもしながら、行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が参加する研修に出来るだけ多くの職員が参加できるように、順番に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活の背景も参考にしながら、本人の望んでいること、困りごとなど、汲み取れるように努めている。時間を掛けて関係を深めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や、定期的に、希望や、望む生活等、伺っている。反映できるように日々努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているのか考え、必要であれば、福祉用具、訪問看護等の検討も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとって職員は家族のような親しみのもてる存在でありたいと願い、気軽に相談し合える関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の面会やカンファレンス時等、ご家族と話す機会がある際は、ご家族のおもいや意向をしっかり受け止める姿勢で対応している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状をだしたり、本人の希望時には電話をかける等対応している。	車に乗せてあげて昔住んでいたところなどを巡回して利用者の生活意欲の向上に努めている。家族以外の知人などが訪ねてきたり手紙を届けに来てくれる人もあり、自然な交流ができています。外泊なども希望により行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子をしっかりと観察し入居者同士の関係性をふまえて、必要時は席替えをしたり職員が間に入り関わり合いがもてるようプランに反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者のご家族より、ご好意で毎年落語の招待を受け、入居者職員共に楽しませていただき良い関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日々の会話の中で希望や意向を聞きだしている。	本人または家族から聴取した生活経過記録がある。本人の好きなもの嫌いなものなどの把握はできている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報をもとに本人やご家族に話を聞き把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の職員から夜勤者まで一日の流れがすぐに把握できるよう特記事項や申し送りノートを活用している。朝の朝礼と夕方の申し送りの時間を一日に二回設けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人につき一名の職員が居室担当者として役割を持っており、担当者を中心にモニタリングを行い情報収集をしてカンファレンスにのぞんでいる。カンファレンスで意見をだしあった結果を計画作成がまとめてプランを作成している。	家族からの要望、意見をベースに、全体会議、ケア会議の意見を担当者がまとめて介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察を行い気づきや工夫を記録することによってレクリエーションの充実化につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の日課として手足の体操や、手すりにつかまっての立ち上がり運動をおこなっている。必要時ハピリのつきそい介助を行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーションの外出時や催し物の際にボランティアの要請をお願いしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が安心して受診できるよう主治医は継続している。 専門外の治療の場合は主治医に相談し紹介状をいただき本人に納得を得てから受診している。	主治医は本人家族の希望に沿って継続している。北信病院の訪問看護が週2回巡回しており、連携はできている。	利用者の身体レベルを観察しながら、家族との間で終末期、看取りの対応について覚書を取り交わしておくことが必要と思われます。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護で症状や変化をしっかりと伝えられるよう看護ノートに気づきを記入している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なるべく病院に出向き、医療関係者と情報を交換しあい、早期退院できるよう呼びかけられている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は終末期の受け入れを積極的に行っているがこれまでにケースが少なく今後の重要な課題のひとつとして考えている。 「グループホームは家」という形態での生活として、入居者に最後まで安心して本人らしく過ごしていただきたいと考える。	入所者の高齢化と、重度化が進んでいく中で今後看取りという場面も出てくると思うが、まだ看取り体験はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが消防にご協力いただき心臓マッサージや人口呼吸等の指導をうけている。他にも転倒時、発熱時の対応はマニュアルを共有しており、特変時は訪問看護に電話する体制も整っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。 消防計画で派遣要請をし、夜間の少ない人員での避難誘導を毛布や人形を使用して学び訓練している。	スプリンクラーは設置されていて防火装置は完備されている。区長さん、消防署の方の指導で定期的に避難訓練はしている。二階からの避難は階段のみである。	避難経路について市や、消防署と吟味を重ね安全誘導を再度検討されることを望みます。共同スペース、階段などの不用品の撤去並びに整理整頓をして誘導の妨げにならないように改善を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の失敗は他者にわからないよう後始末を行い配慮している。	言葉かけには特に注意を払い、特に排泄行為の際は他の人にバット交換やパンツ交換がわからないように注意している。日常なれ合いにならないよう気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に対して決めつけた質問をせずに、入居者が選択できるような言葉かけをするよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっているが、入浴の曜日や食事の時間の変更や外出希望等、希望にそって柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとくしたり化粧水をつけたり髭剃り等、本人が自分でできるよう声がけし支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや苦手なものを把握しメニュー作りと食事当番者は配慮している。できる事を活かして皮むき等の下準備、盛り付け、台拭き、米とぎを一緒に行えるよう支援している。	週単位でメニューを作成して提供している。おはぎや、ニラせんべいなど教えてもらうスタイルで一緒に作っている。食事は楽しく食べられるよう声掛けもしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者全員の一日の水分量を水分チェック表を使用し把握している。水分が摂れない場合はゼリーやお粥で対応するなど工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや介助にて清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導と希望時の誘導をしっかりと行い失敗による不快感を軽減できるよう努めている。	排泄記録を付けて利用者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導をしている。リハパン、パットの使用者もいるが、職員がそれぞれのパターンを把握して誘導に心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因が何かを考える。水分や食事を十分に摂れているか、薬の量は適切か、適度な運動はできているか等居室担当者を中心に対策を決めて対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日の日課は決まっているが無理強いはず曜日や時間の変更は柔軟に対応している。	平均して週2回は入浴してもらっている。便失禁などがあった場合は特別シャワー浴で対応している。現在は入浴拒否はなく順調に入浴できている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて足浴をしたり、就寝時間を決めず入居者の生活習慣にあわせている。不穏時は安心できるような声かけをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、職員全員が出勤後は必ず配薬間違いがないか確認、投薬者は名前、日付を読み上げて確認し、万が一に備えての対応も行えるよう会議等で再確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できないことよりもできることを継続して行えるよう入居者が生活の楽しみ、張りあいになることをしっかりと探だし支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブにでかけられるよう時間を作ったり、計画を立てたりと本人の希望にそえるよう努めている。行事で外出する際は事前にお知らせをしてご家族も一緒にご参加いただいている。	冬場は外出はないが3月から12月までは毎月外出している。花見やドライブなどで、中山晋平記念館や、谷浜の海に行ったりしている。家族にも参加してもらい利用者の笑顔もみられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度がある為事業所では現金での預かりは行っていないが、本人の希望でご家族が了承している場合に限り本人が所持することを承諾し買い物の際に使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける時はまず相手方に了承を得ている。その上でとくに制限はしていない。電話の手紙やはがきの返信ができるよう声がけし支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度を保ちながら適度な空気の入替えを行っている。 眼の病気の方にはまぶしくないような席を配置する等の配慮をしている。 季節におうじてホールの飾りを一緒に作り楽しんでいる。	空間が狭いので机の配置換えなどをして快適に過ごせるよう配慮している。カーテンの開閉をこまめにして採光に注意を払っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの端にソファを置き、職員や入居者同士がよりそって座ることにより良い関係が築けるよう声がけを行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、ベッド、仏壇等本人が落ち着ける環境づくりをすることを第一に考え、万が一転倒のリスクがある場合は本人が納得されるよう説明を行います。	各部屋の収納部分が大きめに取られていて整理整頓が行き届いている。仏壇なども持ち込んでいる人もありその人らしい居室ができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や手すりに歩行の妨げになる障害物は排除し、環境を整える。 トイレや部屋の場所がわかりやすいよう絵や大きめの文字で張り紙や表札の工夫をしている。		